

## ふるさとの農林漁業体験支援事業について

次の ① から ③ の内容を全て取り入れた県内の子どもとその保護者を対象とした食育推進活動を行う団体に対して支援を行っています。

### ① 体験・交流を通じた県産農林水産物の生産・流通等の理解促進活動

農林漁業体験、市場見学、料理実習やそれらに携わる人との交流など、地域の特色を生かした魅力ある体験型の食育推進活動を実施。

### ② リスクコミュニケーション活動

県産農林水産物の安全安心の取組や放射性物質の正しい情報や知識を身につけるための活動を実施。

### ③ 体験・交流を通じた県産農林水産物の生産・流通等の理解度評価

① 及び ② の参加者を対象に、県産農林水産物の生産・流通等に関する理解度についてアンケート調査を実施。



留意事項

- ◎取組の対象者の半数以上は18歳以下の子ども
- ◎補助の上限額は110万円
- ◎避難地域12市町村またはそれ以外の浜通りでの実施、また、東日本大震災により避難している子どもが活動に参加できるよう配慮された事業計画を優先的に採択

その他、本事業については、以下までお問い合わせください。

お問い合わせ先

福島県農林水産部農産物流通課 〒960-8670 福島県福島市杉妻町 2-16  
☎024-521-7354 ✉ryutsu.aff@pref.fukushima.lg.jp  
🌐 <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/>

(令和6年3月発行)

# 体験型の 食育推進活動 を応援します!

## ふるさとの農林漁業体験支援事業について



東日本大震災及び原発事故の影響により子どもを対象とした体験型の食育推進活動の減少、さらには、生活環境の変化に伴う県民の健康指標の悪化や地域社会の活力の低下が懸念されています。そのため、県内の子どもやその保護者が農林漁業体験等を通じて、身近にある食に関心・愛着を持ち、また、食の安全性について自ら判断する力を養うことにより、豊かで健康的な食生活を実践してもらうことを目的に、食育や地産地消に関する体験活動を行う団体に対して支援しています。

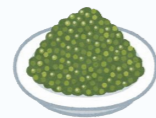


福島県

# 令和5年度は、16の食育推進活動を支援しました。その一部の事例を紹介します!

## 種まき・収穫体験

### コキアはたけの学校



コキアの種まきから始め、どのように大きくなっていくのかを自分でお世話をし、成長観察を行いました。その中でコキアの実が食用の「とんぶり」であることを学び、実際に採取して「とんぶり」を作ったり、最後は収穫して世界にたった1つの「MYほうき」を作り、鑑賞用ではない魅力にふれる機会となりました。また、様々な野菜作りや収穫体験を行い、自然の豊かさ、農業の大変さを学び、野菜のおいしさにふれていただくことも同時に行ない、この企画は4月から12月までの計9回実施しました。



みやぎ生協・  
コープふくしま  
〈参加者〉 87名  
うち子ども50名

## 調理体験

### 食で育む親子のきずな 子育て応援! ふくしま親子の収穫体験会



子育て中の親子に、収穫の喜びと地産地消の大切さを感じて頂くために、サツマイモの収穫体験と調理体験を実施しました。調理体験では、郡山市の「ペップキッズこおりやま・ペップキッチン」で、お子様でもおいしく野菜が摂れるオリジナルレシピ料理に挑戦。サツマイモを使った「お芋グラタン」と「くまのスイートポテト」を親子で協力して調理し、みんなで美味しく頂きました。最後に、紙芝居を使った放射線学習も行い、ふくしまの食べ物と放射線について、親子一緒に理解を深めました。

福島民友新聞社  
〈参加者〉 25名  
うち子ども13名

## 畜産体験

### 夏の田んぼと夏野菜! 収穫体験バスツアー・畜産体験バスツアー



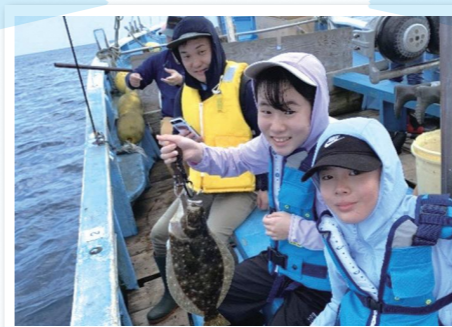
体験を通じて、生産者の努力や苦勞を理解し、農産物が食卓に上がるまでの工程を学びます。大自然に触れ、座学では得られない貴重な体験になります。畜産体験では生産者との交流、食肉の流通についての理解を深めました。また、畜産は原発事故に強く影響されました。原発被害からの復興講話を聞くことで、困難に立ち向かい復興を遂げたふくしまの生産者の力を実感します。体験の後にはふくしまの未来を担う子ども達が、自ら調理する食育体験を通して、地元の食文化を理解し、地産地消による持続可能な農業と食生活を支えるチカラを得る活動となりました。



特定非営利活動法人  
わくわく  
〈参加者〉 47名  
うち子ども35名

## 漁業体験

### いわき野菜と常磐ものを知ってみよう! 「農家と漁師と一緒に巡るおもしろ体験ツアー」



常磐ものは、どのような歴史があり、どのような漁法で取れ、どのように食べると美味しいのか、魚や野菜に関する生産者の話を聞き、実際に釣りや収穫体験を通し、福島県産農林水産物への理解を深めます。さらに自分たちで釣った魚や収穫した野菜を使ってプロの料理人が素材を引き出した家庭でもできる料理をふるまい楽しく味わうことを経験し、常磐ものやいわき野菜の産品そのものと、そこに携わる生産者や料理人までを好きになってもらい、食材とひとを知ること、地場産品に関わらず、豊かな食生活を実践することを目的としました。

株式会社  
ワンダーファーム  
〈参加者〉 27名  
うち子ども15名

## 選果選別体験

### 家族で参加! 選果選別・収穫体験ツアー&料理教室

私たちの食を支える産業である農業を次世代の子供たちに知ってもらうため、生産・流通現場を視察体験し、経験を通じて食に関する知識や判断力を身に付け、健全な食生活を送れるようきっかけづくりをおこないました。また収穫した野菜を使用した料理教室も開催し、親子で楽しみながら学べるツアーとしました。



JA全農福島  
〈参加者〉 42名  
うち子ども22名

## 郷土料理継承

### いわきの漁業を学ぶ食育プログラム 「みみみプロジェクト」



いわき市の幼稚園や保育園、小学校などの子どもたちに、福島県産の水産物や流通、地元の食文化を楽しく学んでもらうことを目的に、食育授業を行いました。今回題材にしたのはいわきの郷土料理「さんまのポーポー焼き」です。紙芝居でいわきの食文化を学んだあと、オリジナル調理キット「さんまのポーポー焼き手づくりキット」を使い、自分たちで調理して、焼きたてのポーポー焼きを食べてもらいました。実際に調理するため児童の反応が良く、満足度や理解度を調査するアンケートからも、すり身文化や魚食に関する理解が高まったという回答が得られました。

有限会社  
上野台豊商店  
〈参加者〉 いわき市内の  
小学生400名以上